

ハノイ市水環境改善理解促進事業（フェーズⅠ）における啓発技術指導

小倉久子 小島博義

1 はじめに

千葉県ではアセアン諸国との交流に力を入れてきたが、中でもベトナムとの国際協力事業を積極的に行っている。標記事業は JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）として、総合企画部国際室を中心とする環境・下水道部局のプロジェクトチームを結成し、ハノイ市下水排水会社（HSDC）をカウンターパートとして 2007～2009 年度にフェーズⅠを実施した。当研究センターは水環境改善の啓発・理解促進を担当したので、報告する

2 事業の概要

2・1 事業の目標

本事業の目標はカウンターパートの HSDC が、現在ハノイ市で稼働している下水処理場（3 ヶ所）及び今後建設される処理場の運転管理を自立して行えること、ベトナム国内の他都市の下水処理に関して必要な指導・助言ができるようになること、水環境保全に関する地域住民の意識啓発のための独自のプログラムを考案すること、及び HSDC が考案した環境教育教材・プログラムを使って、実際に市民の環境意識向上を図ることを目的とした。

2・2 事業内容

(1) 専門家派遣

各年度に 2 回（7 月：1 週間、3 月：5 日間程度）、県から専門家をハノイ市に派遣し、下水道及び水環境の現状確認（視察）及び指導（セミナー）を行った。

(2) 来日研修

各年度の 11 月（第 2 年次は 12 月）に 2～3 週間程度、HSDC 職員を 3 名ずつ受け入れ、下水道施設維持管理・運転管理に関する技術研修・見学、及び水環境教育施設の見学・啓発教材作成指導を行った。

2・3 プロジェクトチーム構成員

プロジェクトチームは、行政管理は総合企画部国際

室、下水道部門は県土整備部下水道課、千葉県下水道公社及び船橋市下水道計画課、水環境部門は環境生活部水質保全課及び当研究センターの職員で構成された。

3 啓発・理解促進のための研修内容

本事業の水環境部門の研修では、市民に対する啓発や環境教育の重要性の認識と、ベトナムという風土・国民性にあった環境教育プログラムの構築・実施を目標とした。

第一年次には千葉県が実施している種々の啓発取組について講義及び視察を行い、啓発とは、から説明しながら、その重要性を訴えた。また、千葉県の取組事例について、ハノイ市における適用の可能性という視点で整理・評価を指導した。

第 2 年次には、ハノイ市で啓発効果のあるパンフレットや環境教育プログラムの作成や下水処理場見学会等の企画等について、講義や意見交換を行った。

3 年次は実践で、2 年次に作成したパンフレット案に来日研修での指導結果を取り入れて完成版を作り、下水処置場見学会を行い、3 年間の総まとめとした。

5 おわりに

以上に述べたように、3 年間の協力事業において、カウンターパートであるハノイ市下水排水会社（HSDC）は、当初の目標をほぼ達成する成果を上げることができた。

本事業は「草の根協力」として、地方自治体レベルでできる国際協力を行うことが目的であるが、千葉県という自治体内部の幅広い協力体制のもとで、ベトナム・ハノイ市の下水道・水環境改善のために良い成果を上げることができたと考えられる。今後も千葉県が蓄積している知識や経験を生かして、ベトナムをはじめ途上国との国際協力に取り組んで行きたい。